年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用）　　教科　総合的な探究の時間　　科目　探究と創造

教　科：　総合的な探究の時間　　科　目：　探究と創造　　単位数：　1　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　4 組

教科担当者：　岩下実優、江口貴巳、高橋初美、時松秀行、若林準也、小林貴子、松井慎吾、森島一貴、石井彰人、大野健人、片島空、茂木高志

使用教科書：　課題探究メソッド2nd Education より良い探究活動のために（啓林館）　　）

教科　総合的な探究の時間　　の目標：

【知識及び技能】　過去の文献や資料、実験や観察、また、アンケート・インタビュー調査等の様々な方法により必要な情報を収集する。

【思考力、判断力、表現力等】　簡単には答えの出ない問いを自ら見つけ、解決の見通しが立ち、実行可能なRQから仮説を設定する。課題とその背景を踏まえた知識体系をつかみ、客観的根拠を示した主張を自らの言葉で説明する。与えられた情報を鵜呑みにせず問いを立て、また、他者からの質問・指摘・批評を吟味し、柔軟に自説を再検討する。

【学びに向かう力、人間性等】　活動そのものを客観的に把握し、言語化するとともに、他者に考えや思いをしっかり伝える。

科目　探究と創造　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
過去の文献や資料、実験や観察、また、アンケート・インタビュー調査等の様々な方法により必要な情報を収集できる。	簡単には答えの出ない問いを自ら見つけ、解決の見通しが立ち、実行可能なRQから仮説を設定できる。課題とその背景を踏まえた知識体系をつかみ、客観的根拠を示した主張を自らの言葉で説明できる。与えられた情報を鵜呑みにせず問いを立て、また、他者からの質問・指摘・批評を吟味し、柔軟に自説を再検討できる。	活動そのものを客観的に把握し、言語化するとともに、他者に考えや思いをしっかり伝えることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	現代社会と探究活動の授業とのかかわりを学び、QCの目的について考えられるようにする。グループ活動を通じて計画的に行動する意義を学ぶ。メタ認知から目標を言語化し、双方の情報伝達を体験する。	QCの目的や、目標について一人ひとりがグループワークを通じて考える機会にする。グループワークとは何か、その意義について理解させる。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。詳細は、QCコアプログラムⅠ・Ⅱのルーブリックによる。	○	○	○	2
	リサーチクエスチョンの設定と仮説を立てる。	高校卒業後の進路と密接につながる探究活動という意味づけを行う。 自らの興味関心に基づいてゼミ分けを行い、ゼミ毎の活動を始める。 探究のゴールと情報収集の在り方を学習する。		○	○	○	6
	調査・実験を行い、夏季休業中の研究計画をたてる。	調査・実験を主体的に行う。行う必要に応じて、研究機関、地域の教育や福祉を担う施設や商業施設等との連携を図り、実践的に、社会や人々と関わる態度や行動力を身に付けるようにする。 中間発表の準備をする。		○	○	○	6
2学期	中間発表を行い、課題設定について再検討する。ポスターセッションによって発表の構造と技法を学ぶ。先行研究・事例を調べ、学ぶ。見通しを持った研究計画を再考し、新たな仮説を設定する。調査・実験を始める。	中間発表を通じて、異分野との連携を意識するなど、創造の芽を培う。 課題設定を再検討し、見通しを持った探究活動の実現を目指す。 探究の手法を再度見直し、リサーチクエスチョンを議論し、仮説設定につなげる。		○	○	○	8
	調査・実験を主体的に行う。行う必要に応じて、研究機関、地域の教育や福祉を担う施設や商業施設等との連携を図り、実践的に、社会や人々と関わる態度や行動力を身に付けるようにする。 最終発表の準備をする。	仮説検証型のゼミ活動を進める。		○	○	○	6
3学期	調査・実験のデータを得て、結果をまとめる。研究内容をまとめ、発表準備を行う。	これまでの振り返りを整理させる。不足していることで補えることを確認し最終的なまとめに入る。		○	○	○	2
	調査・実験のデータを得て、結果をまとめる。研究内容をまとめて発表準備を行ない、五学年合同の最終発表会で発表を行う。	最終発表会やその準備を通して、普遍的な探究手法への理解を深め、メタ認知により次年度を個々に考えられるようにする。プレゼンテーションの観点についても理解を深める。		○	○	○	2
	最終発表会の振り返りをまとめる。	最終発表会やその準備を通して、普遍的な探究手法への理解を深め、メタ認知により次年度を個々に考えられるようにする。プレゼンテーションの観点についても理解を深める。		○	○	○	1
	１年間を振り返り、コア･プログラムⅢ・Ⅳへ向け、創造的な連携を模索する。	全体発表会を通じて異分野との連携を考えさせる。また、高等学校卒業後の進路選択と関連づけられそうな新たな課題設定を模索させる。		○	○	○	2
							合計 35

年間授業計画

高等学校 令和8年度（２学年用）　教科　総合的な探究の時間　科目　探究と創造

教　科：　総合的な探究の時間　　科　目：　探究と創造　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　1 組～　4 組

教科担当者：　青柳息吹、安齋知里、植竹康亮、小川登子、熊倉みなみ 、田中洋、手塚隼人、手塚　博紀、浜田正人、村木大峻、小野澤洋平
門間絹介

使用教科書：　課題探究メソッド2nd Education より良い探究活動のために（啓林館）　　）

教科　総合的な探究の時間　　の目標：

【知識及び技能】　テーマや問いに対する基礎知識・理解を深める。問いに近い先行研究を探し，問いに応えるための手法について理解する。文献や資料、観察実験，アンケート・インタビュー・エスノグラフィー等の様々な方法により必要な情報を正確かつ効率的に集められるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】　与えらえた情報を鵜呑みにせず問いを立て，簡単には答えの出ない問いを自ら見つけ，実行可能なRQとして導く。また，探究手法を定めるために仮説を設定する。課題とその背景を踏まえた知識体系をつかみ、客観的根拠を示した主張を自らの言葉で論理的に説明する。他者からの質問・指摘・批評を吟味し、柔軟に自説を再検討する。

【学びに向かう力、人間性等】　指示を待つのではなく，自分が今，何をすべきか。何を行うとよいのかを自分で考え，実行する。他人任せにせず，自分自身と向き合いながら研究を実践する。

科目　探究と創造　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
テーマや問いに対する基礎知識・理解を深める。問いに近い先行研究を探し，問いに応えるための手法について理解する。文献や資料、観察実験，アンケート・インタビュー・エスノグラフィー等の様々な方法により必要な情報を正確かつ効率的に集められるようになる。	与えらえた情報を鵜呑みにせず問いを立て，簡単には答えの出ない問いを自ら見つけ，実行可能なRQとして導く。また，探究手法を定めるために仮説を設定する。課題とその背景を踏まえた知識体系をつかみ、客観的根拠を示した主張を自らの言葉で論理的に説明する。他者からの質問・指摘・批評を吟味し、柔軟に自説を再検討する。	指示を待つのではなく，自分が今，何をすべきか。何を行うとよいのかを自分で考え，実行する。他人任せにせず，自分自身と向き合いながら研究を実践する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	テーマを設定する。問いを展開しながら，リサーチクエスチョンを導いていく。先行研究を探し，問いに対して，どのような手法を用いれば答えが出せるのかを理解する。その上で，テーマに対する見通しを立てる。	QCのテーマ設定とその見通しを立てる。ゼミ活動によって，さまざまな問いを検討し，また，その答えを見つけ，それに対する問いを展開することを通じて，テーマに対する知識理解を深める。	観点は、情報収集力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、表現・発信力の５つとする。積極的に探究活動に参加する姿勢やグループ活動による協力的な態度、学習成果の発表やまとめの提出物の状況などの総合的に評価する。詳細は、QCコアプログラムⅢ・Ⅳのルーブリックによる。	○	○	○	8
	リサーチクエスチョンを導き，仮説を立てる。根拠のある仮説を立てること。複数のリサーチクエスチョンを検討する。予備的な情報収集を行い，探究活動全体の見通しをもてるようにする。	興味関心に基づいてゼミ分けを行い、ゼミ毎の活動を始める。輪読や対話，ワークショップなど，ゼミの特色を出した活動を通して，問いを小さくし，具体的に何を行うかを明確にする。		○	○	○	8
	社会的，学術的な意義を検討し，具体的な手法を確立して研究計画書を作成する。夏休みを利用してテーマに対する本格的な情報収集を行う。	調査・実験を主体的に行う。研究機関、福祉を担う施設，商工会議所等との連携を図り、実践的に、社会や人々と関わる態度を養う。		○	○	○	8
2学期	夏休み中の情報収集の結果をまとめる。ゼミ内発表を行い，各自の進捗状況を客観的に把握し，何をどのようにしなければならないのかを判断できるようにする。論文作成のための情報収集を行う。	チェックリストによって，必要なことをピックアップし，研究計画書の調整を行う。図表など，情報の可視化を進める。		○	○	○	10
	論文作成を始める。探究手法と結果からまとめる。その際，論点整理を進める。大切なこととして，引用文献，参考文献の表記，リストづくりを丁寧に行う。	校正を行う。パラグラフライティングをチェックすること，具体的な論点が明確であるかを確認する。図表のサイズや，キャプション，単位などが適切であるか，チェックリストの項目を生徒間で評価せる。		○	○	○	12
	論文の二校を推敲し仕上げて提出する。最終発表会の準備を行う。	プレゼン資料上の作成ポイントや注意点を明示する。		○	○	○	6
3学期	最終発表会において，探究活動で明らかになったことを，根拠に基づいた主張として，論理的に展開しプレゼンスキル向上を目指す。また，ゼミ交流会において，深めた問いのアウトリーチと異分野連携の可能性を模索する。	論理的に根拠に基づいたプレゼン内容をつくる。発表資料においては可視化，ビジュアライゼーションを工夫する。ジェスチャーや目線，どこを明示するか，など，聴き手の立場になることを指導する。		○	○	○	12
	高校1年生を対象に，ゼミ紹介を目的にしたワークショップをゼミ毎に行う。質疑応答や，テーマについての対話を行うことで，課題に対する見方，考え方の実際，具体的な探究手法についての理解を深める。	批判的思考力や課題発見力を向上させるためには，何が有効か。他者との連携づくり，情報収集の実際などについて，対話を通じメタ認知させる。		○	○	○	2
	学年発表会として，各ゼミ代表生徒がオーラルプレゼンテーションを行う。課題解決には多角的，多様なものの見方，考え方が必要であることを学ぶ。	２年間を振り返り、情報収集力，批判的思考力，課題発見力，連携力，論理的思考力，文章表現力などの資質能力をどれくらい高めることができたかを，生徒一人ひとりが判断し振り返る。		○	○	○	4
							合計 70